



週報 第3083回

会長 白谷 喜世彦 副会長 原 真理子
幹事 小門 茂樹 SAA 山本 博章

例会会場 ホテルレイクホテルズアルザ泉大津
TEL 0725-201121
例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



泉大津ロータリークラブ
IZUMIOTSU ROTARY CLUB

今週の例会(2020年9月18日)

■ プログラム

卓話講師 西成警察署長
警視正 田淵 久善 様
「コロナ禍における「あいりん地域」と警察」
泉大津警察署長 警視 近藤 亮治 様

■ 次週のプログラム

9月25日・卓話担当 飯野 信 会員

■ 今後の予定

- ・10月2日：クラブフォーラム
川端 徹 米山記念奨学金委員長
- ・10月9日：定款の規定により例会休会

■ 祝 誕生日

なし

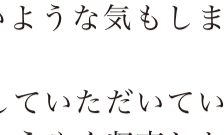
■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

■ 先週の例会

会長の時間

本日はコロナ前と同じ狭い会場となっています。ソーシャルディスタンスはとれているのでご安心ください。この会場は本日のみですが、このような会 白谷 喜世彦 会長場は会場で親密感があっていいような気がします。また、原さんが久しぶりに出席していただいています。アゼリアのコロナ感染もようやく収束したそうです。それを聞いて胸をなでおろしています。さて、コロナはコミュニケーションを破壊します。人と人があつたことを否定します。コロナはこれまでの成功モデルを破壊しました。カナダの世界に影響を与えた女性に選ばれた、ナオミクラインは今回のコロナによるいろんな変化はコロナによるものだけではなく資本主義グローバルゼーションによる効率化すぎた時代がすでにまたなくなってしまった。これへの対応でいろんな手が打たれ先送りされていたことが一気に顕在化しただけ。だから、コロナによって変化したのではなく加速されたに過ぎないと思っています。私たちの目の前にあるのは、これまでとはまったく違う世界となってきています。この世界ではこれまでの成功体験が通用しません。この変化に対応してということが求められているようです。



■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数43名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
9/11	38名	5名	—	88.37%
8/28	35名	8名	3名	88.37%

■ メークアップ

榎本(9/8 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
藤野(8/26 献血事業)
泉谷(9/11 会員増強委員会)

■ ニニココ箱

- ・寺田さん、今日は宜しくお願いします(白谷)
- ・皆様ご心配おかけしました。アゼリアも無事終息致しました。米週からがんばります。私は大丈夫です(原(眞))
- ・寺田理事、本日のクラブフォーラム宜しくお願い致します(小門)
- ・寺田理事、本日は宜しくお願いします(山本(博))
- ・早退します。すみません(高寿)
- ・早退のお詫び(八木(秀))

ニニココ箱合計	10,000円
累計	192,000円

■ ハイブリッド例会

例会風景



さて、いまコロナによりリモートと盛んにいわれてます。確かにいろんな技術が進みリモートが簡単にできるようになってきました。そしてなんでもがリモートでできるかのように言われています。しかし、リモートで物事を進めるためには、まずこれに参加する人たちの価値の共有がなくてはならないと思います。また、効率化するとか応用ととかといったこれまでの成功モデルを踏襲するなら有効かもしれませんが、これまでのグローバル資本主義の限界が見えてコロナによって変化のスピードを上げた。今の状況。新常态(ニューノーマル)においては、必要となる対応は革新です。そのためには、リモートは不向きなように感じます。また新たなメンバーとするとときも、お互いがわかる前にはリモートは厳しいと思います。このようなことから、いま必要なことは、新しい技術、常識を取り入れることは必要ですが、まず人と人の関係を築くこと。そのためには直接人とあつることが重要となってきているように思えます。

そんな意味からも、ロータリーの存在意義、例会の開催意義があると私は思います。

■ 幹事報告

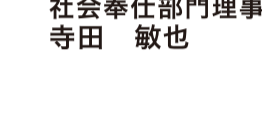
小門 茂樹 幹事

- メールボックスに前例会費請求書を入れておきますのでよろしくご依頼致します
- 9月16日(水)事務局休みになります

■ 委員会報告

- 例会終了後、会員増強委員会を開催します(泉谷 仁博 会員増強委員長)
- 次週、65周年記念ゴルフコンペの会費5,000円を集めさせていただきます(西田 佳郎 親睦活動委員)

先週のプログラム 「クラブフォーラム」



社会奉仕部門担当の寺田です。今回は泉大津ロータリークラブの社会奉仕の指針とか、今後の活動についてお話ししたいんですが、30分は少し長いので、まず最初に新しい方もおられるので、簡単に自己紹介をしたいと思います。

生年月日は昭和31年2月13日で、64歳になります。実際は2月23日生まれで、オヤジの出生届ミスらしいです。

家族構成は、今現在90歳の母と家内の3人で暮らしております。長男は37歳で、東京でIT関係の会社に勤めております。4年前に東京出身の同僚と結婚しました。次男は35歳で、和泉府中に住んでおりまして、サラリーマン勤務の後、家業を継いで

くれています。子供は3人おります。ちなみに、今現在泉大津JCにお世話になっております。長女は33歳で、食品会社の営業をしていて、この4月に男の子を出産しました。今現在、堺の東区に住んでいます。と、ということで、今孫が4人おります。

家業は毛布屋で、自宅と会社は岸和田市の箕土路町というところにごございます。最寄りの駅はJR阪和線の久米田駅で徒歩10分弱です。箕土路町は、JRと第2阪和の間になっていて、隣が志岡町高月で岸和田市の一番端になっています。私が生まれたころは、180軒程度でしたが、今は1300軒とかなり増えました。JR阪和線と並行して、大阪和泉南線がありますが、地元では13号線と呼ばれています。

子供のころは小栗街道と呼んでいました。実際は小栗街道つまり熊野街道は現在の13号線の所をでたり入ったりしながらあったようです。現在の和泉府中方面から下り下がり、うちの町の町を縦断していたようです。うちの自宅の勝手口を出たところに、幅3mの旧熊野街道が現在も残っています。実際の幅は5m程度あったようです。京都からの熊野詣の代表的な街道跡です。この日は又、次の卓話の時にでもゆつくりしたいと思います。

私は大学を卒業して、スポーツ関係かアパレル志望だったんですが、アパレル関係がごとごとく落ちて、日刊スポーツ新聞社に受かり入社しました。ところが、一度落ちたアパレルのレナウンから採用の通知がきて、10日間通った新聞社を退社してそちらに入社しました。家業を継ぐ予定はなかったのですが、事情があり6年勤務の後、帰ってきました。レナウンは残念ながら、この春、経営破綻してしまいました。なかなかいいブランドも、なくなってしまおうと思うと寂しい限りです。

帰ってから30歳でご縁がありまして、泉大津JCに入会させて頂きました。卒業時、同期は申とりの会として13名おりました。残念ながら現在10名となっております。うち5名は、藤野さん、森口さん、上田さん、原さんと、現在ロータリークラブの仲間であります。全員で年に3~4回食事をしたり、数年に一度旅行に行ったりと楽しくやっております

JC卒業後は、会議所青年部に入会して最後の年の50歳で会長をさせて頂きました。そういった関係で平成24年56歳の時、このロータリークラブに入会させて頂きました。同期には、松村君がおられます。以上簡単に自己紹介させて頂きました。

それでは本年度の社会奉仕の活動計画の献血の件ですが、先週の8月26日に市役所で行われました。皆さん、ご協力ありがとうございました。この献血は、主催の泉大津献血推進協議会に共催という形で協力させて頂きました。この形をとるのは2回目、前回1月に同じ形で初めてロータリークラブがお手伝いしました。ロータリークラブがお手伝いする前の昨年までは、献血受付数が10数名から30名程度だったようです。

今年の1月の実績は、大雨の中53名という事でロータリークラブの共催という方法で飛躍的に伸びました。会員の皆様のご協力やPR、また提供商品の充実などがあつたかなと思われまます。それで今度も、コロナウイルスの影響や猛暑ということもあり、前回+アルファの商品をご用意しました。おかげ様で皆さんのご協力もあり、72名の受付という事で無事終了しました。有難うございました。

それでは、泉大津ロータリークラブにおける、社会奉仕活動に対する方針についてお話ししたいと思います。ちょっと読み上げますが、眠くなったら申し訳ございません。泉大津ロータリークラブ「決議08-01」

本クラブは、国際ロータリー「決議23-34」を生きた奉仕哲学として採用することを、会員一同の賛意を得て、茲に決議した。「23-34」社会奉仕に関する1923年の声明「社会奉仕に対するロータリーの方針は、1923年国際大会で採択され、以降の国際大会で改正された次の声明に述べられている。ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活の奉仕の理想を適用する事を奨励、育成することである。

この奉仕の理想を履行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動をすすめてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリークラブの指針としてまた、社会奉

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3083回

仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

- ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、他人は利己的な欲求と義務および、これに伴う他人の為に奉仕したいという感情との間に、常に存在する矛盾を和らげようとするのである。この哲学は奉仕「超我的奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践論理の原理に基づくものである。
- 本来ロータリークラブは、事業及び専門職務に携わる人の代表としての、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している。人々の集まりである。まず第一に、奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体が学ぶこと。第二に、自分の活動においても、地域社会に対しても、その実践例を団体が示すこと。第三に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業及び日常生活において実践に移すこと。そして第四に、個人としてまた団体としても、大いにこの教えを説き、その実践を示すことによって、ロータリアンだけでなくロータリアン以外の全てが、理論的にも実践的にもこれを受け入れるように励ますことである。
- RIは次の目的の為に存在する団体である。
 - ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成及び全世界への普及。ロータリークラブの設立、奨励、援助および運営の管理。
 - 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強固でなく有益な助言をあたえることによって、各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、すでに多くのクラブによってその価値が実証されてくると、RI定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかなない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動にによってのみ、その標準化を図ること
- 奉仕する者は行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも奉仕の理論を実践に、移さなければならない。そこでロータリークラブの団体的行動は、次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリーク

ラブルも毎年度、何か一つ主だった社会奉仕活動をそれともなるべく、毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようにするのが、後援するようにすることである。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ全員の一致した協力が必要とするものでなければならない。これはクラブ会員の、地域社会における個々の奉仕を奨励する為に、クラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものと

する。

5.各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に絶対的な権利を持つという社会奉仕活動に、ロータリークラブの本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてRIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆をあたえることはあつても、しかし、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対してはならないものとする。

6.個々のロータリークラブの、社会奉仕活動の選択を律する規定は設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

a)ロータリーの会員数には限りがあるので、ロータリークラブは、市民全体の積極的な支持なくして成功しえないような広範囲な社会奉仕活動は、ほかに地域社会全体の為に発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場所に限り、これを行う事とすべきであり、商工会議所の那る土地では、ロータリークラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしったりすることないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活躍すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広く全ての社会奉仕活動に参与し、その能力の許す限り、金銭や仕事上でその分を果たすべきである。

b)一般的に言って、ロータリークラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

c)ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に、宣伝をその主たる目標としてはならないが、

ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。

d)ロータリークラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e)ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく既存の機関に協力する形でおこなうことが望ましいが、既存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じて、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリークラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、既存の機関を活用することのほうが望ましい。

f)ロータリークラブはその全ての活動において、宣伝者として優れと働きをし、多大の成功を取っている。ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけたすことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下さすこととはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事にロータリーだけの責任に頼らないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。またロータリーは事業を始めたり指導したりするが、一方、当然それは関心を持っていて、また考えられる他の全ての団体の協力を得るよう努力すべきであり、そして、当然ロータリークラブの掃すべき功績であつても、それに対する自分のほうの力を、最小限度に評価して、その全ての協力者の手柄にするようにしなければならない。

g)クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広く全てのロータリアンの個々の力を動員するものほうが、ロータリーの精神によりかなっていると言え。それは、ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施す為に考えられたいわば研究室の実験としてののみこれを見るべきであるからである。

あと残された活動は、来年1月にもう一度献血がございませ。それとまだ未定ですが、来年港湾美化清掃への協力があります。また、認知症サポーター育成への協力ですが、新型コロナウイルスの影響もあり、引き続き川端さんと話し合いたと思います。

以上、社会奉仕部門のクラブフォーラムでした。

ありがとうございました。

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3083回

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

=言動はこれに照らしてから=

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか